1.「親になる」ことを支援する妊娠期からの助産ケアに関する研究
2. 女性と助産師との関係の成り立ちに関する現象学的研究

看護学科（母性看護学）
看護学研究科（助産学）

大和田　裕美

● 連　絡　先　　TEL：054-202-2913
E-Mail：h-owada@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード　父親，妊娠期からの親支援，子育て支援，女性－助産師関係，現象学的研究

【テーマ1】子育て支援活動を行う NPO とともに、妊娠期から子育て期にある方を対象とした講座を開催しながら、「親になる」ことへの支援について研究しています。中でも、パートナーが妊娠期にある男性に対する支援は、母親となる女性をサポートするために必要な知識・技術の提供を目的としたものが多く、男性自身が「親になる」ことへの支援が十分になされているとは言えません。そこで、パートナーが妊娠期にある男性を母親のサポーターではなく、親になっていく存在ととらえた効果的な助産ケア方法の開発に向けて研究しています。

【テーマ2】女性と助産師との関係は、助産ケアを支えるものでありながら、当の女性や助産師にとってはっきりと自覚されないままに経験されています。そこで、現象学を手がかりに女性と助産師との関係がどのようにして成り立っているのかを研究しています。

アピールポイント　カナダ発の親支援プログラム「Nobody's Perfect」認定ファシリテーターである助産師として、パパ向けマタニティ講座を開催しています。